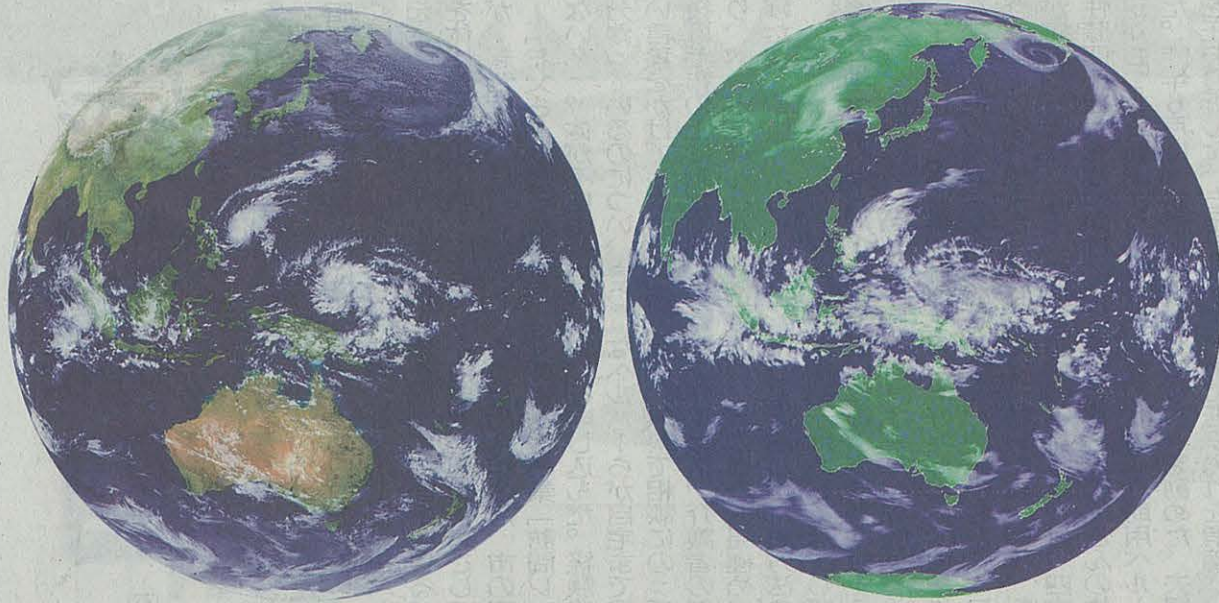




雲の予測 現実並みに



子が、現実の画像と同様に分かる。

ひまわり8号からは、宇宙空間に浮かぶ青い地球上で刻一刻と変化する白い雲の動きを見ることが出来る。東京大と海洋研究開発機構が共同開発した超高解像度全球大気モデル「NICAM」は、数値シミュレーションによってひまわり8号の画像と見間違えるような画像を描くことができるようになった。

一方、ひまわり8号は2時間隔の画像が得られるが、同じ解像度でNICAMによる数値シミュレーションを実現するには、スーパーコンピュータ「地球シミュレータ」や「京」が必要だ。

二つの図を比べると、NICAMの方がやや雲が多く、雲の生成過程のモデルを改善する必要性が示唆される。ひまわり8号のデータは数値シミュレーションの検証や改良、コンピュータを使った予測の基礎データ作りに役立つ。今後、NICAMやスーパーコンピュータが、気象・気候予測のシミュレーション研究に大きな変革をもたらさそう。

①図は、昨年12月13日の地球の表面を、3・5時間隔で分割してNICAMでシミュレーションした雲の画像だ。②図は、同じ時刻のひまわり8号の赤外線画像。NICAMの画像では、フィリピン付近の熱帯の雲の塊から台風27号が生まれる様子がよく見える。

①図は地球シミュレータで作成。那須野智江・海洋研究開発機構主任研究員提供、

②JAMSTEC/AORIRIKEN

★情報通信研究機構が公開している「ひまわり8号リアルタイムWeb」は、スマートフォンやパソコンなどで自由に閲覧できます。(一部機種非対応)



共同企画・監修 情報通信研究機構大環境リモートセンシング研究センター

週間予報と2週目の気温傾向

<概況>

この1週間は、前線が停滞する期間があり、西日本を中心に梅雨時のような天候となった。高温傾向は続いたが、雨になった分、気温の上がり方は鈍かった。一方、前線の南側に入った沖縄や奄美では、梅雨明け後のような天候となった。ここへ来て初夏らしい晴天となってきており、1週目前半まではこの晴天が続く。その後一旦天気は崩れるが、2週目にかけて、西日本から北日本の各地では晴れる日が多くなる。一方、沖縄や奄美では雨の日が多くなる。気温は北日本で高温傾向が続くが、他は2週目には平年並みに戻る見込み。晴天が多いこの時期の天候を有効に活用したい。

<北日本>

今週末までは晴れて気温も上がるが、来週前半に一旦天気は崩れて気温も下がる。その後

	13日(金)	14日(土)	15日(日)	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)	2週目の気温傾向 5月20日~5月26日	平年 気温
札幌	24 8	21 10	22 12	16 10	18 11	17 10	18 9		18.2 9.4
網走	23 4	17 7	20 9	13 7	15 8	14 6	13 5		15.0 6.4
釧路	14 4	16 6	14 6	10 6	12 8	13 6	12 6		12.6 5.8
秋田	23 10	21 9	24 11	23 13	18 13	19 12	21 12		19.8 11.5
仙台	24 12	20 11	20 11	23 13	21 14	22 12	23 13		20.2 12.0
東京	26 16	23 17	23 15	25 16	24 19	26 17	25 17		23.6 14.8
新潟	25 13	20 13	25 15	27 16	21 14	22 14	23 14		21.7 13.7
名古屋	27 15	25 15	25 15	23 15	24 17	26 15	26 16		24.8 15.2
舞鶴	26 12	27 14	25 15	25 16	24 16	26 14	26 16		23.7 13.1
大阪	26 15	27 15	26 17	26 17	24 18	26 16	26 18		25.2 16.4
松江	24 13	24 13	27 17	22 16	23 13	24 14	24 15		23.3 13.8
広島	24 15	25 14	26 17	23 16	24 14	25 15	26 16		24.5 15.5